幸若かわら版

幸若舞の里づくり会
事務局　橋本守行
電話090-7746-8689

第　４４号
令和　５年　９月　１日

郡上青山藩葉菊会と交流会

前列中央が青山会長と同夫人

さる七月三十日、郡上青山藩葉菊会との交流会が行われました。（同会は旧郡上藩藩主青山氏の子孫である青山幸文氏を会長として、郡上八幡市関係有識者などがメンバーのまちづくり応援団体である。「葉菊」は青山家の家紋に由来する。）

当日は、まず同じく郡上藩陣屋があった越前市千福町を訪れたのち、午後当越前町に着かれた。一行は青山会長と同夫人をはじめとして、事務局の原元文氏や同会理事、同市学芸員など九名の参加であった。

まず、織田文化歴史館を訪れ、村上学芸員から、越前町の概要の説明をうけた後、劍神社に参拝した。その後、一行は打波六兵衛邸を見学しました。打波夫人は同家の由来や屋敷の維持管理の苦労について話をされました。

最後に、幸若文化情報センター（町図書館）を視察され、同館内の幸若研究室で懇談会を開催しました。

幸若舞が途絶したことやその復興の事情が話題とされました。また、全国的に有名な「郡上踊り」の実態や継続発展について説明を受けました。

旧朝日町（幸若舞）と郡上青山藩との「縁」

- 桃井氏の祖先とされる鎌倉幕府の御家人・足利義胤に与えられた上野国群馬郡桃井庄は青山氏先祖青山蔵人師重が領した上野国青山郷とは直線20㌔の距離にある。
- 宝暦８年１７５８年宮津藩から郡上藩に転封された青山幸道氏は、越前にも領地を与えられ、その一部に朝日村も含まれて、幸若二家との相給とされた。いわゆる「貞享の半知」１６８６年の結果、藩内には多くの幕府直轄領が存在していた。
- 宮津藩から転封された青山氏は、「郡上一揆」や「石徹白騒動」後の混乱した郡上藩を良く治め、幕末まで続いた。

２面に関連記事あり

郡上青山藩葉菊会からの礼状

令和５年８月 12 日

様

郡上青山藩 葉菊会
会長　青山幸文

拝啓　時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
先日は、葉菊会の研修にあたり、大変お世話になり有難うございました。
昔のご縁がこのようにつながり大変うれしく思っております。

平成３０年、歴史の顕彰と継承について知識を交換し親睦を厚くするとともに、公益に寄与することを目的とした会「郡上青山藩葉菊会」を立ち上げました。
ご縁のある方、歴史に興味のある方、郡上に限らず関東や他県にも及び、現在会員数 125 名になりました。

令和元年 10 月、第１回研修として、越前大野郡（大野市・勝山市）を管轄していた郡上藩若猪野陣屋跡（勝山市）を訪問しました。
第２回研修会として、丹生郡、南条郡を管轄していた千福陣屋（越前市）、越前町方面を企画しておりましたところ、コロナウイルスが蔓延し規制が入った為、やむなく延期しておりました。
この度、コロナウイルスが５類へ移行したのを契機に、再度研修会を検討した次第です。
当日、原　元文理事の案内で御地を訪ねることを大変楽しみにしておりました。　おかげ様で充実した１日を過ごすことができました。
油坂峠、九頭竜を超え、遥か先の御地にと思うと、感慨を新たにいたしました。さらに深く研修をという思いでおります。
どうぞ今後ともよろしくご厚誼をお願いいたします。
残暑厳しき折から、ご自愛専一に祈ります。　敬具

秋季研修旅行金沢市ご案内！

本年も下記要領により、研修旅行を実施します。
目的地　金沢市　釜師・宮崎寒雉氏（朝日観音福通寺梵鐘製作者子孫）工房
　　小松市　安宅の関跡見学
日　時　１０月２９日（日）午前7時30分役場前出発、午後5時帰着
参加費　２０００円／人
問い合わせ申し込み　月田会員090-2127-7856または橋本会員090-7746-8689
　　〆切１０月２２日

幸若歴史愛好会開催

7月28日

古墳から見た継体天皇前後の社会経済状況について、青木講師から講義を受けました。その要旨は次のとおりである。

①継体天皇の母・振媛が子供とともに戻った実家は丸岡町南東部にあり、この地には北陸最大の前方後円墳・六呂瀬山古墳群が築かれている。これらの規模は、越前のみならず越国一帯の首長墓といってもよい。振媛はこの大首長の系譜に連なる存在であり、彦主人王（継体天皇父）に嫁ぐことができた。

②継体天皇に二人の妃を出した三尾氏の本拠地は横山古墳群が存在する越前北部（あわら市・坂井市）である。近江とする説もあるが、この横山古墳群も当時の越国随一であり、埴輪などの出土品技術を踏まえても、本説は妥当であろう。

③横山古墳群のふもとにあわら市御簾尾（みつお）町があり、奈良時代の郷名に「水尾郷」、駅名に「三尾駅」があり、前出の三尾氏が類推される。

次回は九月二二日開催で、引き続き継体天皇の関連・周辺状況がテーマである。

打波邸見学会

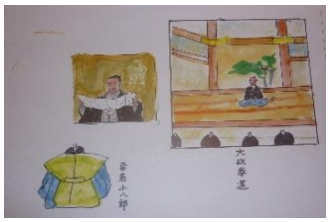
今回の研究会を早めに切り上げてかねて会員より希望が出ていた「打波六兵衛邸」の見学会を実施しました。

屋根のトタン葺き修理など後代に手を加えられている個所もありますが、家屋の骨組みや間取りは、築四〇〇年ともされる当時の技術・様式・調度などを残している。

現在は、居住しておらず、日常の維持管理のご苦労などを打波夫人から伺いました。

打波邸見学説明会

（10／16）



（11／16）

（12／16）

あさひまつり参加

３年ぶり７月２９日に通常規模で開催された「あさひまつり」に参加しました。出展ブースで、パネル展示、ＤＶＤ上映、リーフレット配布などを行い、幸若舞をＰＲしました。

越前幸若舞の歴史と越前町

村上学芸員（本会顧問）講演

さる８月６日（日）、退職公務員連盟丹生郡支部主催により、織田コミュニティセンターで、見出しの講演会が開催されました。

＊幸若舞の祖は桃井直詮とされるが、武家としての意識が強く、幸若舞関係舞曲の収集の勅宣を受けるが、これに従わなかった。その後、将来にわたり芸能家としては扱わないとの綸旨を受け、直詮は了承してさらに幸若舞曲に磨きをかけ、天皇から桐菊の御紋を賜った。

＊幸若舞は。その後も信長・秀吉・家康の三代の権力者から保護を受けたが、江戸時代中期ごろから、時の将軍・幕閣の関心を失い、帯刀禁止を命じられるまでになった。

＊幕末には、江戸城登城でも舞を演じることはなくなり、明治維新の改革により、幸若家も上知処分を受け幸若舞は消滅する。

＊その背景には、幸若一族はあくまでも「武家」であり、「舞」は余技であるとの意識が底流にあったのではないか。

当面の主な予定

９月２２日（金）	幸若歴史愛好会
９月２３日（土）	西田中白山神社秋祭り
９月３０日（土）	劔神社観月の夕べ
１０月２９日（日）	石川県金沢市方面研修旅行
１１月　４日（土）	朝日地区文化祭

令和5年7月13日午前7時　天王川出水

当会顧問打波氏　越前町に寄付

当会の打波悦子顧問は、昨年亡くなられた夫・打波六兵衛氏の供養として、出身地の越前町の振興発展を願って、この八月一日に一千万円を寄贈されました。